

第1回立地適正化計画専門部会の報告

～まちづくりの方向性について～

令和3年12月23日(木)

建設部 都市計画課

1.大竹市の現況及び課題(分野別課題のまとめ)

人口

- 人口密度の維持
- 雇用の創出
- 地域の維持

土地利用・市街地形成

- 都市のスポンジ化への対応

公共交通

- 公共交通を中心とした利便性の高いまちづくり
- 人口減少が見込まれる中での、公共交通利便性の維持や運行の効率化

産業

- 雇用の創出
- 小売業の維持

財政

- より効率的な行政(都市)経営

防災

- 災害危険性の低い土地利用の推進
- 災害に強いまちづくりの推進

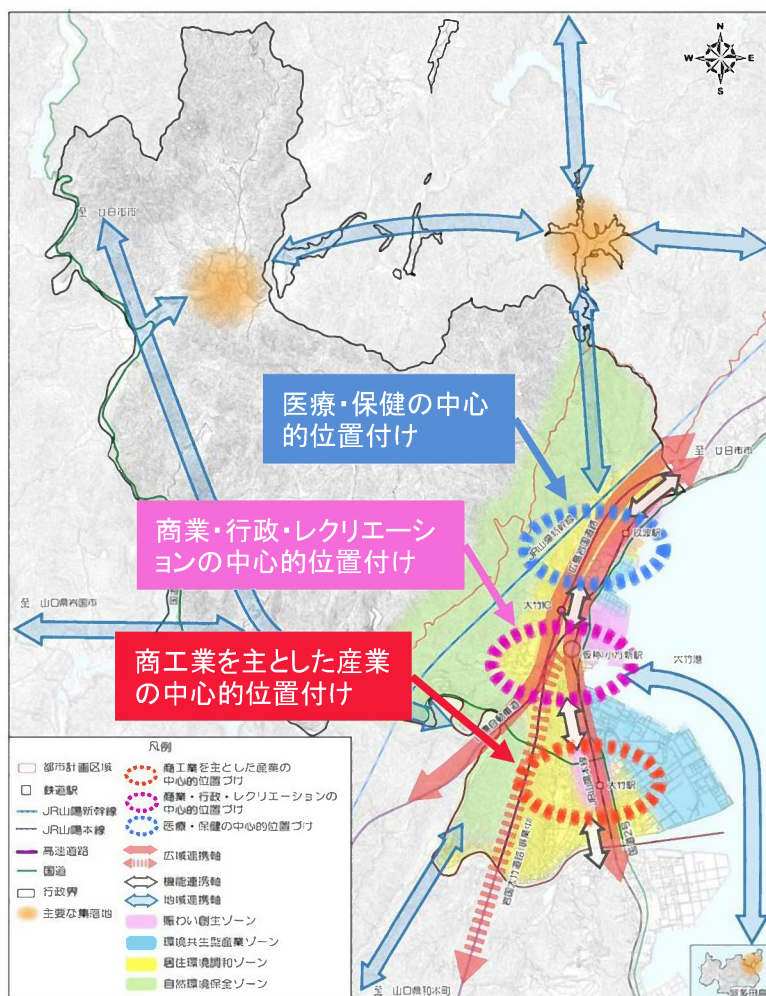
都市構造評価

- 生活利便性の高いエリアの特性を生かした有効活用

2.上位・関連計画における方針(都市計画マスタープラン)

- 令和元(2019)年10月策定の大竹市都市計画マスタープランでは、地域の特性を踏まえ3つのエリアと4つのゾーン(地区)を位置付け、連携軸でつなぐこととしている

■将来都市構造図



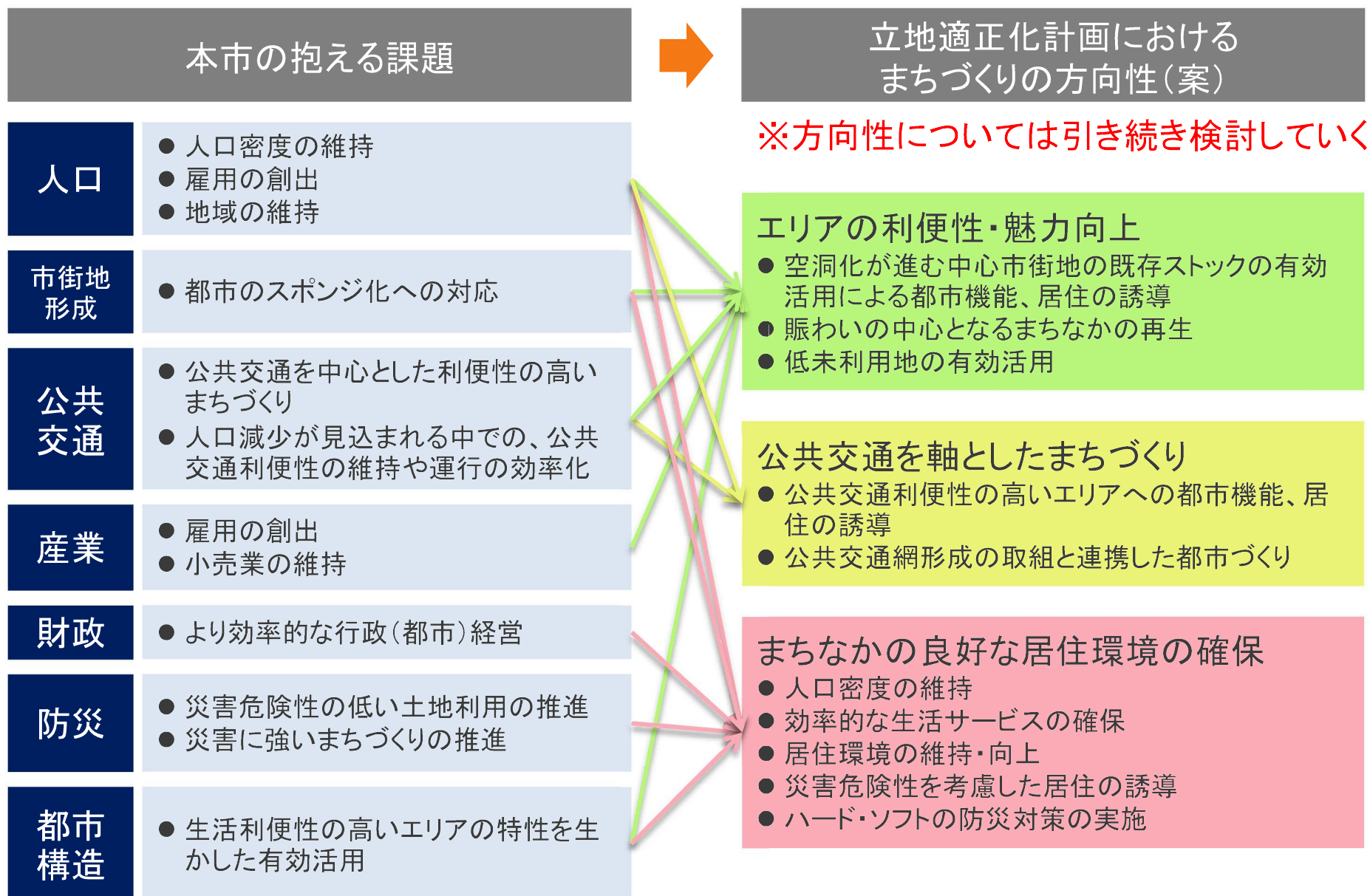
■エリア

エリア	機能	考え方
大竹駅を中心としたエリア	商工業を主とした産業の中心的位置付け	交通結節点としての利便性向上のための整備
市役所周辺エリア	商業・行政・レクリエーションの中心的位置付け	本市全体の賑わいにつながる地域の魅力向上に取り組む
玖波駅周辺エリア	医療・保健の中心的位置付け	広島西医療センターを有するなど医療・保健機能を備える

■ゾーン

ゾーン	場所 (市街化区域関連抜粋)	考え方
賑わい創生ゾーン	大竹、小方、玖波地域の商業系用途地域周辺	計画的な市街地の整備・開発を進める
環境共生型産業ゾーン	市街化区域内の工業系用途地域周辺	居住環境と調和し、都市景観としての魅力も生み出す工場の生産・流通を強化
居住環境調和ゾーン	市街化区域内の住居系用途地域周辺	生活環境の維持と、近隣の自然とが調和した豊かな居住環境を形成
自然環境保全ゾーン	市街化区域内の自然地	自然環境や自然が生み出す景観を保全

3.まちづくりの方針(ターゲットの検討)



3.まちづくりの方針（ターゲットの検討）

まちづくりの方向性

エリアの利便性・魅力向上

- 空洞化が進む中心市街地の既存ストックの有効活用による都市機能、居住の誘導
- 賑わいの中心となるまちなかの再生
- 低未利用地の有効活用

公共交通を軸としたまちづくり

- 公共交通利便性の高いエリアへの都市機能、居住の誘導
- 公共交通網形成の取組と連携した都市づくり

まちなかの良好な居住環境の確保

- 人口密度の維持
- 効率的な生活サービスの確保
- 居住環境の維持・向上
- 災害危険性を考慮した居住の誘導
- ハード・ソフトの防災対策の実施

上位・関連計画における方針（将来像）

第1期大竹市まちづくり基本計画

まちづくりのテーマ：『生涯おおたけ やっぱりおおたけ』

第2期大竹市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 誰もが健康で生きがいをもち、安心して暮らせる魅力的な地域を実現する
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 地域経済を活性化し、安心して働ける魅力的な雇用の場を創出する

大竹市都市計画マスタープラン

- 都市機能の強化と公共交通ネットワークの形成を実現する都市づくり
- 安定した産業基盤と豊かな住環境の形成を目指す都市づくり
- 災害に強く、安全に安心して暮らせる都市づくり
- 地域力の向上のもと、みんなで進める協働の都市づくり

大竹市地域公共交通網形成計画

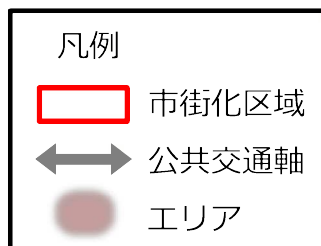
- 市民生活が便利な、移動環境の満足度が高いまちの実現
- 持続可能な地域公共交通サービスが暮らしを支えるまちの実現
- 地域公共交通を利用・応援する市民意識が高いまちの実現

まちづくりの方針（ターゲット）（案）

移動しやすく快適で安全・安心なまちづくり

4. 目指すべき都市の骨格構造の検討

- 立地適正化計画では、都市計画マスタープランで中心的位置付けとされている3つのエリア（大竹駅周辺・市役所周辺・玖波駅周辺）を中心に、**都市機能／居住誘導区域**を検討する。
- それに対して、3つのエリアや市内外を結ぶ公共交通路線を**基幹的公共交通**と位置付け、エリア同士が連携・交流を図ることができるような**利便性の高い公共交通ネットワーク**を形成する。



▲都市の骨格構造（案）

5.本資料に関する部会での主な意見

発言者(委員)	内容
岡本委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 大竹市の大企業は県外からの通勤が多い。そのため、将来人口は22,000人を下回る方向になるのではないかと考えている。お知恵をいただいて増やす方向を模索していければと思う
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口規模が減る中での施策や目標値の考え方は抜本的に変えていく必要があると考えている ● 地震の時の液状化も考えられるので、沿岸部の埋め立て地の状況も考慮してほしい
谷岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 津波や洪水などの用途に応じた避難場所についても検討してほしい防災のハード、ソフトの対策を示してほしい
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ● なぜこれほど自動車分担率が高いのかを整理しないと、そもそも公共交通を導入しても意味がない可能性もある。「公共交通」に加えて「自転車」の活用を考えることで、クルマを使わない方法を考えるのが良いのではないか ● 駅に近く市街地でいい場所であるが、古くからの市街地で空き家が多いところをどうするか。どうやってコンパクトシティにしていくかが重要な考えになり、改善方法をしっかり考えてほしい
三井委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校は市外にいき、そのまま市外の就職になる場合が多い。引き戻すための施策が必要であると思う。大竹市に勤めたいと思ってもらえる施策がないか。雇用の創出は重要な点である
廣中都市計画課長	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、20年で、土砂災害特別警戒区域に入っている市街化区域を市街化調整区域に変更することが挙げられている。広島県内で10,000箇所あり、令和6年度には、市街化区域の縁辺部を中心に市街化調整区域に逆線引きしていくことが挙げられている ● 大竹市では、浸水想定区域に最も人が多く住んでおり、浸水しないようにするのは不可能である。そのため、防災指針で浸水リスクを低減、早期避難を基本として検討してほしい